

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470900180		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホームあらしま		
所在地	三重県鳥羽市安楽島町字高山1075-29		
自己評価作成日	平成 27年 8月 12日	評価結果市町提出日	平成28年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470900180-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2470900180-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27年 9月 9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鳥羽湾の広い海や緑など自然に囲まれた環境の中で、窓から眺める空と海との青さは心安らぎ、静かな生活が送れる。  
1階がデイサービスになっており、立地条件として地域との交流が図りにくい点をカバー出来る。月1~2回の合同の催しや、自由な行き来が出来て、友人や馴染みの方と交流を深めている。入居者の方に笑顔で毎日をご過ごして頂くためには職員自身が笑顔で働いている事が大切であると自覚し、その事を目標に日々のケアに当たっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊勢志摩国立公園に位置する鳥羽湾を眼下に望むグループホームあらしまはユニット名をかもめ(鳥羽市の鳥)・はまなでしこ(鳥羽市の花)と命名され、自然景観に恵まれた保養地に立地している。デイサービス併設の1階の玄関ロビーには『みなさんようこそ』と『職員の顔写真』を掲げ、スタッフの紹介をしている。廊下には利用者の手芸品を飾るなど、明るく和やかな雰囲気になるような工夫が随所にみられる。開設時にみんなで考えた「その人らしさを大切にしながら明るく穏やかに過ごせるホーム」を理念として共有し、ケアの質の均一化の実践に取り組んでいる。昼食時『此処は毎日御馳走!』と話された利用者ご夫妻を見守る、職員の眼差しは優しく、家族からも感謝の声が多く届いている穏やかな事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員全員が見える場所に掲示している。その理念を日々確認し、利用者に接している。	職員全員で意見を出し合い一緒に考えた理念『その人らしさを大切にしながら明るく穏やかに過ごせるホーム』を、利用者が墨で書き、その作品が掲げられている。申し送り時に確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月たくさんのボランティアの方々に来て頂いたり、買い物や地域の行事に参加する事で地域の方や知り合いの方と交流等している。又、ボランティアを通し、デイサービス利用の方々との交流もしている。	ホテルや保養所が多い地域であるが、市民広場への散歩時に交流のあったフラメンコの先生やフラダンスやギターなどのボランティアの方々に来ていただいたり、デイサービスの利用者との交流や老人会のカラオケに参加するなど事業所が地域の一員として交流出来る機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアやご家族など来て頂いている方には発信しているが、地域全体への貢献には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方、ご家族、利用者に参加して頂き、それぞれの意見・要望・質問等を聞き、サービス向上の為に活かしている。会議議事録を作成し、全職員が共有できるようにしている。	2ヶ月に1回、偶数月の第4火曜日に運営推進会議を開催し、事業所からの報告や参加者からの質問・要望・意見をうけ、地域の支援と理解を得る機会にしている。議事録もきちんと作成されている。(鳥羽市の花火大会を家族やボランティアの方々や施設屋上で見物出来る様にしてほしいとの要望もあったので現在検討中である。)	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者も参加して頂き、連絡を密に取っている。1ヶ月1回の介護相談員訪問時に現状報告し、情報交換を行っている。	介護相談員訪問時に同行する鳥羽市担当者に事業所の実情を伝え、市の連絡協議会部会にも参加している。また運営規定の変更時などに、鳥羽市介護保険課と連絡を密にとり協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束廃止委員会に参加し、委員会での情報などを職員全員に伝えている。又、マニュアル等を活用し、拘束しないケアを徹底し利用者のケアに取り組んでいる。	法人内での身体拘束廃止委員会にグループホームからも参加し、職員に伝達講習を行っている。また職員自身が身体拘束と言葉の拘束の弊害を認識し、日々の言葉かけに留意し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学び、身体面だけでなく精神面や生活面にも注意を払っている。すべての虐待において、職員が気を付け、利用者のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を使用している利用者はいないが、制度について学び、理解し、いつでも支援出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や相談員の説明などで十分な話し合いが出来る場を持ち、不安や疑問に答え、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とコミュニケーションを取り、意見等を聞いたりしている。家族には面会時などに声掛け、会話等で意見を頂いている。ホームの玄関には意見箱を設け、苦情や不満を聞く機会を作っている。	担当制をとっており、利用者・家族が意見・要望などを言いやすい関係づくりに配慮して支援している。また不満を話しやすい雰囲気づくりを工夫して、利用者一人ひとりと話をする機会を設けている。家族の訪問も多く有り、感謝の声が届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回の職員会議やなんでもノートを活用し、利用者の状態や報告・意見等を出し、話し合いをしている。会議議事録を作成し、職員全員が確認している。又、運営者は年1回各職員との面談を設け、職員の意見を聞く機会を持っている。	年1回のホーム長との面談や事務長との面談などで職員の意見を受け止める機会がある。また2ヶ月に1回の職員会議で意見を出し合い、そこから出た要望や意見などを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、業績考課シートを使用し、各職員の状況等を把握し働きやすい職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に出来る限り、参加できるようにシフトを調整している。資格等を受験希望者には研修案内や受講情報を提供し各職員が協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設や地域等の研修に参加したり、市の介護保険サービス事業者連絡会の活動や施設部会参加により、交流を図っている。又、その交流等で情報共有しサービス・ケアに活かすよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談においては利用者・ご家族の今の状態、これからの希望について話を聞き、本人が安心して生活して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入に当り、現在家庭において困っている事を取り除きながら、本人の希望に少しでも近づける様、ご家族と話し合いを出来る機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族が穏やかに生活して行ける為に必要としている支援に対応できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味や得意分野(カラオケやゲーム等)に関する会話の機会を持ち、その人らしく穏やかに過ごして頂けるよう環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と密にコミュニケーションを取り、別に生活されていても生活内容・健康状態等を知って頂く。家族との絆を大切にするために行事開催等には声を掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援、買い物、ドライブ等で知り合いの方との交流の機会を作っている。運営推進会議にも参加して頂き、馴染みの人とお話しして頂ける場所を提供している。	併設のデイサービスを利用している知人の訪問を支援したり、家族が訪問しやすい雰囲気づくりを工夫し、家族との絆を大切にしている。行きつけの美容院や地域のスーパーへの買い物・法事・墓参りなど馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。また外泊・外出の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りでその日の利用者の状況や趣味を把握して入居者同士の関わりを支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた利用者のご家族の方がボランティアとして訪問して下さり、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや希望を把握し出来る範囲で話を聞き、楽しく過ごせるように努めている。	入浴時や散歩時の会話などで利用者一人ひとりの希望や意向を把握し、なんでもノートに記載して、全職員が共有し、その人らしく暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の基本情報やご家族からも生活状況を知り、その上で他の入居者や面会の方からも情報を得て馴染みの生活が送れるように支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝健康状態を把握し、一日の様子・行動をチェックし1日2回の申し送りにて報告し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーにより、本人・ご家族と一緒に担当者会議に出席して頂き、それぞれの意見を取り入れた介護計画を作成している。	3ヶ月毎に担当職員・利用者・家族の意見を確認して、ケアマネージャーが現状に即した介護計画を作成している。状況に変化が出た際には随時の見直しも行っている。計画書は家族に報告し、職員にも説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はカルテに記入と申し送りにて話し合いの場を設けている。ケアの気づき、工夫等はなんでもノートを使って職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院受診の付き添いや本人とご家族の希望があれば夜間の面会・外出・帰宅等にも状況に応じ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域サービスの利用希望はないが、外出支援を利用して、時節の花を見学したりドライブに出かけて、自然に触れながら生活の中で出来る支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を聞く。希望が無い場合は同一法人の病院がかかりつけ医となる。(月2回の往診あり)体調不良の際は家族に連絡し近くの医療機関を受診して頂けるようスムーズな連携が図れるための支援をしている。	グループホーム利用時に本人・家族から希望するかかりつけ医の確認をとっている。希望のない方は法人内の病院と連携をとり、月2回の往診や年1回の健康診断などを支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職による毎日の体調の変化観察、看護師が1週間に1回の健康管理を行い、1人1人の様子を観察。変化があれば看護師に相談。緊急時にも対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、その都度医療機関と診療情報の提供を図っている。相談員も含め、本人・ご家族との連絡も取り合い退院時期等の相談にも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては今後行う事が出来る様に職員全員が勉強会に参加している。本人・ご家族と話し合い、希望があれば、かかりつけ医と連絡を密にし、安心して終末期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	『医療連携体制及び重度化した場合における指針』を作成し、看取りは原則行わないことを説明しているが、昨年末に家族の強い希望で開設時より利用されていた102歳の利用者のターミナルケア・看取りが行われた。チームで支援に取り組めるように法人の勉強会に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル等を作成してある。訓練の一環としてシュミレーションをし、職員間で確認し合っている。又、応急手当等は看護師指導の元、行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の元、年2回の防火・防災訓練を行っている。(1回は夜間想定)又、運営推進会議での情報交換や、出席者の方にも訓練に参加して頂いて協力体制を築いている。	鳥羽市消防署の協力を得て年二回、夜間想定消防訓練・総合防災訓練を併設のデイサービスと一緒に実施している。被災時には地域が孤立化する可能性も視野に入れて、自家発電2台と非常用食料3日分を準備している。	利用者一人ひとりの状態をふまえて、昼夜を通じて災害時の具体的避難策を検討され、確実な避難誘導ができるように、日々の職員役割分担を明確にされる事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1日2回の申し送りで入居者の状態を把握。職員間でも情報交換し、言葉かけや対応に活かしている。職員会議でも議題を出し合い確認し合っている。	利用者一人ひとりの気持ちを大切に考えて、無理強いないケアを常に心がけている。語調や言葉かけが利用者の誇りやプライバシーを傷つけることがないように笑顔で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重するよう努める。帰宅願望等、無理な時はご家族の承諾を得て自宅に電話するなど、少しでも思いが出せる様働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にしながら1日を楽しく過ごして頂ける様支援する。不安な時、体調が悪い時は少しでも声掛けをして安心出来る様努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と外出時、床屋に行かれる方もいますが、月に1回美容師さんの訪問があり、本人の希望にあった散髪等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来る事を手伝って頂く。野菜の下ごしらえや食器拭き・配膳等、昔話をしながら職員と一緒に仕事をして頂く事で穏やかな雰囲気作りを心掛けている。	2ユニットともにオープンキッチンである。匂いや音などで五感を刺激して食事が楽しみなものになるように工夫している。菜園ノートを作成し、事業所内の菜園で収穫した季節の野菜もメニューに取り入れ、職員も同じテーブルで一緒に食事をし、利用者との会話が弾み、楽しい食事の風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事後と就寝時のお茶、おやつ時のコーヒーの他、必要な時に水分補給を提供する。食事の摂取量を記入し一日の栄養バランスをチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいを実施。夜間には義歯洗浄剤に浸けるなどし、口腔内の清潔に努めている。自分で出来る方には声掛け促しを実践するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導・声掛けの必要な人にはチェック表を作成し、時間単位で声掛けを実施している。又、その時の状態により布パンツに変えていくよう支援している。	排泄チェック表を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握して、さり気ない誘導でトイレでの排泄を大切にしている。(1ユニットにトイレは3ヶ所設置しており、お気に入りのトイレを利用する方の支援も行っている)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するために、水分補給や廊下での歩行、体操等をして頂いている。便秘の方には排便チェック表を作成し、必要な方には個々に応じた便秘薬を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回入浴して頂いている。外出や体調不良の方には足浴や清拭をしたり、入浴日以外に対応している。	浴室は外気が入る窓があり、ゆったりと入浴できる造りになっている。週3回午前中が入浴になっているがそれ以外にも随時対応している。職員が持参した柚子湯や菖蒲湯などで、入浴を楽しむことができる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者に合わせた機能訓練や軽い体操・ゲーム等を楽しんで頂いている。不眠の方に対しては、睡眠薬を服用して頂く事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理表で1人1人の目的・用法・用量等は確認出来る。症状の変化等は薬の服用も含め、カルテの記入や申し送り理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事後の食器拭き・片づけ、野菜の下ごしらえ、朝の拭き掃除(手すり)等、出来る事は手伝って頂いている。レクリエーション参加、体操、ゲーム、カラオケ等を催し、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年1回のお花見会や外出・外食を楽しんで頂き、天気の良い日はドライブにも出かけている。週1回の買い物に行き、好みのおやつを購入され楽しんでいる。	ゆったりとした2階ベランダにはベンチが置かれ、戸外に出かけにくい方でも日常的に外気浴ができるように工夫している。遊歩道のようなベランダからは鳥羽湾の花火大会や季節の移り変わりが眺められ、利用者の楽しみごとになっている。また菜園ノートを作成し、菜園での水やりなど日常的に戸外へ出かけられるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持して頂ける方には少額を渡して、安心感を持って頂き、好みのおやつや日用品等を自身で買って頂く様にしている。又、個別の金銭出納帳も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が使用可能だが家族様の仕事等も考慮して可能な限り交流を図っている。手紙の郵送も事務所の協力を得ながら発送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の友人の方がボランティアで四季折々の生け花をしてくださり、楽しみにしている方もおられる。又、入居者と一緒に折り紙や貼り絵等、季節に合わせて壁飾りを変えたりしている。	広いベランダに面した大きな窓のある明るい共有スペースには、利用者の知人の活花や季節の壁飾りが飾られている。畳コーナーやお気に入りのソファなど居心地良く過ごせる工夫や配慮が随所にみられる。職員の声のトーンも適切で、窓からの風は季節を体感できる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで編み物や読書をされたり、隣同士で座られた方とお話されたり、時々おやつを食べていただいたり出来る場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた椅子や小物類を持ち込まれていたり、写真や塗り絵をして頂いた絵等を飾り、本人希望の場所に置いたり飾ったりしている。	各居室には作り付けの机や清潔な洗面台が利便性とプライバシーを重視して設置してある。手編みの得意な方の部屋には編み針が持ち込まれ、職員のマフラーを編まれる方もいる。利用者一人ひとりが清潔で落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように絵や文字表示をし浴室には暖簾をかけたり工夫しながら入居者に分かりやすいように心掛けていく。		